

北区民まちづくり会議 摘録(平成27年6月2日(火) 午後6時30分～8時)

【開会】

○委員の交代について

市政協力員連絡協議会世話人代表 本田委員 ⇒森下徹委員（金閣学区）

PTA 連絡協議会の鎌田委員⇒ 小泉委員（楽只小）

○会議を公開（発言要旨を北区役所ホームページに掲載）することを説明

【区長挨拶】

- ・お忙しい中お集まりいただき、御礼申し上げます。
- ・これまで、北区民まちづくり会議の委員の皆様には、部会などを重ね、北区基本計画のこれから5年間に優先して取り組むべき重要な事柄について、熱心に議論を重ねていただいた。様々な御意見や御提案を頂戴し、感謝する。
- ・本日は、各部会において出された御意見や御提案を「これから5年間のまちづくり」を考える上での指針とすべくとりまとめたので、委員の皆様積極的に御議論いただきたい。
- ・また、昨年度から、北区制60周年記念事業についても、北区民まちづくり会議の委員の皆様、色々と御検討いただいた。今回、改めて御説明をさせていただくので、委員の皆様におかれてもぜひ、積極的に御協力・御参加いただきたいと思う。
- ・北区制60周年記念事業である記念誌発行などに係る協賛金については、実行委員会の地域代表の方にお集まりいただき、それぞれ学区の目安となる目標額をもとに、地域で集めていただくことになったが、地域代表の皆様の御尽力により、既に350万円の目標金額に達することができた。本当にありがたい。北区の地域力を改めて知るとともに、区民の皆様への60周年に対する御理解・御協力について、区役所として実感しているところである。まちづくり会議委員の皆様におかれても、地域から声を掛けられた際には、ぜひ御協力をいただくとともに、協賛金について御協力いただける事業者・団体などを御存知であれば、本日お配りしている賛同書により趣旨を御紹介いただくと大変ありがたい。地域においては、5月末に集計をしているが、60周年記念事業が終了するまで、協賛金のお願いを続けてまいりたいと思う。
- ・今後も魅力あふれる北区のまちづくりを、委員の皆様とともに進めていきたいと考えている。盛りだくさんの内容で長時間にわたるが、最後までよろしく願います。

【議事】

○座長

次第に従い、議事を進行する。まず、北区制60周年記念事業について、事務局から報告をお願いします。

○事務局

- ・＜資料2，3，4に基づき北区制60周年記念事業の概要について説明＞
- ・60周年記念事業については3月の実行委員会において御報告をした。その後の変更、決定したことを中心に御報告する。

・「未来を語る会」は、資料2のとおり実施する。まちづくり会議委員の皆様におかれましては、ぜひともご参加いただきたい。

・コミュニティラジオについては資料4のとおり開局に向けて取組が進められている。まちづくり会議委員の皆様が開局に向けてご賛同をいただきたいと考えている。北区らしい取組で、地域連携、大学連携により地域情報発信するものである。今回、準備会の立命館大学坂田先生からの賛同依頼書をお配りしている。三条ラジオカフェが事務局になっている。既にフラットエージェンシー吉田委員から御賛同いただいている。立命館大学、大谷大学、京都産業大学、佛教大学の学長にも御賛同いただいているが、他にもこの賛同者をこれから増やしていきたいと考えている。ぜひともまちづくり会議委員の皆様へ賛同書を御提出していただきたいと考えている。この賛同書をご提出いただいたから、何かをしていただくという訳ではないが、後々放送のための資金も集めるので、それについても御協力いただけるとありがたい。北区としても、開局に向けて応援していきたいと思うので、ぜひともご賛同いただきたいと思っている。本日、御提出いただいてもありがたいし、後日できるだけ早くいただくと、心強い限りである。

○座長

ただいまの事務局からの説明について、何か御意見や御感想などおありでしょうか。

○委員

「未来を語る会」について、各中学校に5人程度を参加されているということで、私も以前中学のPTA会長をしていたので、伺いたい。区内にある中学校というと4校であるが、区内に住んでいる子どもが通う中学校となると、上京区にある嘉楽中学校も該当する。どこまで参加者を拡げていかれるのか。

○事務局

区内の4中学校ということで、加茂川中学、旭ヶ丘中学、西賀茂中学、衣笠中学の校長先生にお声をかけているが、嘉楽中学には声をかけていない。

○委員

中学校は、北区と上京区を合わせた通学範囲になっている。そのあたりは、中学に御相談されたら、いかがかと思う。

○座長

他に、御意見等あるか。

○委員

コミュニティラジオ賛同書について、団体は、どう記載したいらいいか。学区にはたくさん団体があるが。

○事務局

賛同書は多ければ、多いほどありがたい。各団の会長名としてでも、個人でもよい。ラジオに賛同して名前が載ってもいいという方がいらっしゃれば、個人でも団体でもどちらでも結構なので、賛同いただけるとありがたい。

○委員

コミュニティラジオについて賛同させていただくが、運営に興味がある場合、委員の立場

でお手伝いできることはあるか。

○事務局

現在、発起準備会において検討している。NPO法人を発起する際には、会費等を頂戴することになるかと思うが、広く運営メンバーを募集するので、その時期になったら、ぜひ、願います。まずは設立に向けて、賛同者を拡げたいということである。

○座長

「未来を語る会」について、1テーブルの参加者6人～8人ということだが、内訳は？

○事務局

1テーブルの人数は、委員3人程度、中学生3人程度、ファシリテーター1人を想定している。

○座長

15人～18人の委員が必要になる。本日欠席の委員にもぜひ参加のよびかけをお願いしないと、委員の人数が足りなくなるので、よろしく願います。

他に御意見がなければ、議題に移る。「北区民まちづくり会議の議論のまとめについて」事務局から説明をお願いする。

○事務局

- ・資料5に基づき、スケジュールを説明。
- ・資料6に基づき、案を説明。
- ・委員の御議論をお願いしたい。

○座長

非常にきれいな形で整理できていると思う。ただいまの報告は、2回開催した部会をもとにとりまとめたということだが、各部会での議論を進めていただいた先生方に御礼を申し上げる。部会長の先生方から補足の説明あるいは御意見があれば、願いたい。

○副座長

北区が大学のまちという特性があり、なかなか北区に学ぶ学生が、継続して地域に関わることは難しいが、それが非常に重要であるという話であった。

○副座長

2回の会議で色々な話が出た。まとめていただいたものは抽象的なものだが、これから具体化していき、つめて進めていくということになると思う。微力だが私もお手伝いさせていただきたいと思う。部会において論点になったのは、一つは地域と大学の関係である。様々なところで大学と地域が関わっているということで、御園橋商店街と京都産業大学の取組、佛大が地域に入っている事例など、区内各地で連携した取組が実施されている。といっても全ての地域ではない。拡げるためには課題もあるという議論も出ていた。これまで進んできた大学・大学生と地域の連携をより一層進めたいという意見が出た。もう一点は、地域の中で孤立した状態で生活している方がいることについてである。子育て中の母親、学生、高齢者などで、孤立している方がいるという話があった。ここでまとめていただいたように、みんなと一緒に地域活動をしていくようにするのが大切だと思うが、特に子どもが小さなころからの地域の関わり持つという点において「食育」として、子どもたちが「食べる」というこ

とで地域につながり、地域と関わるのがよいという話もあった。一律的な関わりは難しいと思うので、多様なつながり方があったらいいという話があった。2回目の部会では、社会的な大きな課題である「孤立」について取り上げ、一人ひとりにあった「関わり方」「つながり方」が大事だという話であった。各委員熱心に御議論いただいた。

○副座長

うまくフレームをとって、「THINK」、「LINK」と整理していただいた。部会では、ごみを畑に捨てられることを例にして、ゴミの問題の解決について、例えばどこにごみを捨てたらいいかがわかる「ごみ箱マップ」をがあれば、捨てないなどの話があった。具体的な話が、ここでは抽象化されているが、具体化される際に参考にしていただきたいと思う。他に具体的なアクションとして、パブリックスペースの扱い、清掃活動、あいさつ活動の話があった。こちらの部会でも大学連携の話は出ていた。大学間同士が連携することができていない。難しいことだとは思いますが、せっきやく区内に5大学があるので、いかに連携していくということを視野に入れて進めていく必要があると思った。

○副座長

外から人が訪れること、交流人口をどう増やすかということを中心に話し合い、文化×健康というキーワードを共有した。例えば、上賀茂神社と金閣寺は観光地として点で存在する。それを健康のために「歩く」「自転車で行く」ことで点と点を面で結び、北区の魅力を発信するなどの話が出た。北区は他の地域とどう違うだろうということも活発に議論された。豊かに生きるために健康が必要であり、その健康にいいということで北区を打ち出したらよいという話だった。「北区だから」「北区でしかできない」ことを打ち出し、北区に来る交流人口を増やすという議論であった。

○座長

それでは、これから委員の皆様から御意見を御自由に伺いたい。

○委員

資料にある国勢調査の数字は、住民登録の数字か？マンションなどに住む学生さんも含めた数か。

○事務局

国勢調査では、北区内の各戸に配布した回答用紙により集計しているので、住民登録のない方も含めての数字である。

○委員

北区は学生のまちということで、学生のパワーを取り入れることが活力につながる。人口構成のグラフを見える化すると、学生はこれだけ多いのかということがわかる。地域の方も学生を地域の場に引きずり出す、例えば地域に住む学生に何かを義務化することもいいのかと思う。学生に対して何かを与える代わりに何かをしていただくというようなことを地域は真剣に考えることも必要だ。学生の力は、本当に重要である。

○副座長

せっきやく北区で学んだのだから、その後につなげるということで、北区にどう関わるかと言うことを学生に話をしている。5月の始め、1年生は北区のことを知らない。授業の1コ

マを使い、船岡山に登り、歴史について語り、景観上のポイントとして京都市が定めているということを説明している。北区の大学で学んだあともどうしたら地域とつながるかということを見ると、大学にいるときから、少しでも北区を知る、つながりを持つということが重要である。

○座長

私も教員として、できることがあるのではないかと思います。「遠足」という形で、学生を連れて大田神社にカキツバタを見に行った。せっかく行ったが、シカが食べてしまっていた。教員としては、学生が北区を知る機会をつくらうと思えばつくれるので、そういう努力はやっていきたいと思っている。

委員の皆様から御意見を頂戴する場なので、何かあれば、御発言をどうぞ。事務局のとりまとめには、それぞれのつながりの中で18の取組について提案がある。具体的な行動まで提示されていないものも多いので、具体的にこういうことができるのではないかとということでもよいので、御意見があれば、発言をお願いします。

○委員

うまくまとめられているなかで、どこに該当するかわからないかお話をさせていただく。先ほどの部会のお話の中で、北区のオリジナルのいいところをPRしていく、大学がどう関わるかというお話があった。私が先日体験したことがなんらかの形で関わってくるかと思い、お話をさせていただく。このまえの日曜に上京茶会というものが大徳寺の塔頭であった。「上京茶会」という名前だが、大阪、東京、横浜、広島、九州などからわざわざ、宿泊したり、新幹線を使ってやってくる。1日だけのイベントで350人という枠があるのが、希望者が枠を超えて抽選になっている。そのような素晴らしい大徳寺が北区の中にあるのだから、もっと全国にPRしていくことができる。三千家がある京都でお茶が飲めるということが、全国の人にとってはすごいことなんだと思う。北区にしていると意外とわからない。知っていてもいつでもいけると思ってしまう。上京茶会は上京区役所がやっている。「北区民茶会」を大徳寺で限らず北区のどこかでやってもよいと思う。大学との関わりの話をすると、おやじの会とともに人づくり21世紀委員会で活動している。人づくりということで大学生にも手伝ってもらい、地域の高校生に北区や市内にいろんなものがあるということを知って貰える取組をやってきた。上賀茂神社の行事やお祭りにも入ってもらっている。京都産業大学の学生である。学生も色んな形で、色んな人と知り合えば、京都にまた戻ってくる。そういうことをシステムのままでとは言わないが、拡げていければと思う。

○委員

この案はすばらしいと思うが、「北区基本計画～はつらつ北区プラン～」をどうすれば、地域の人々に知ってもらえるかと考えている。学生については先生におまかせするが、地域の人にどうしたら知ってもらえるか、浸透させるか。地域活動に関心のない人が半分以上いる。どうしたら、いいか。これが私たちの課題だと思う。地域のリーダー、各団体のみなさんにこの話をもっとしていただく。こういう方針でまちづくりをやっていくんだということを研修会や会議で話をする、意見を貰うなどしたらいいと思う。いくら計画が素晴らしいくても、先に進めない。ぜひとも地域の人に目を向けていただく。知ったら、やれる人も地域に

はたくさんいるので、行政と一緒にやっていきたいと思う。

○座長

ただいまの、委員のお話だが、区民の方の意見を聞くことを行政でも何か考えておられているのではないか。

○区長

少しずれているかもしれないが、お話をさせていただく。今回のとりまとめ案では、各論に入る前に「実践するために」ということで、書かせていただいている。行政と住民、事業者が一緒になって共汗型でまちづくりを進めているが、一步進めて様々な主体が「自分ごと」として相互に、場合によっては行政抜きに、大学同士の連携を含めてやっていくことを考えていけないかと思う。

また、地域では、「北山三学区まちづくりビジョン」「柵野学区まちづくりビジョン」ができています。全体を進めるうえで、各論を進めることもありかと思う。学区単位のビジョン、学区単位のまちづくりの取組を考えていただく機会があれば、北区の基本計画についても地域の方に考えていただくきっかけとなる。ビジョンを作成する際には、手法の一つとして、区民提案支援事業制度があるので、それを使っていただき、関係する大学の先生の御協力をいただき、住民のみなさんに主体的にまちづくりビジョンを作っていたらどうかと思う。コンサルに委託するのではなく、大学資源を有効に活用していただき、検討していただければ、よいかと思う。今回のとりまとめについて議論するうえで、区役所の中ではそのような話をしていたところである。

○委員

部会でもお話をさせていただいたが、北区は有名な観光資源もたくさんあるが、例えば西陣の鍾馗さんなど、見て、歩いて、楽しいものがある。私も東京から来た人間だから、京都に来て初めて知ったことも多い。上賀茂神社、今宮神社、建勲神社、など立派な神社もたくさんあるが、北区のまちの普通の景色の中にもよいものがある。「また行きたい」と思って貰えることが大切だと思う。先日、大田神社のカキツバタを見にいった。毎年行くのだが、咲く景色は、毎年少しずつ違う。「暮らしたい」という点については、私事だが北区から上京区に引っ越した。非常にいいところだったが、交通の便が理由である。それだけが理由ではないが、移動しやすいところということで引っ越した。そのようなことを考えると、今後どうしたらいいか、もう少し掘り下げていただければ、思う。

○委員

まちづくり会議の委員の中で、北山三学区の関係は私一人であるが、行政の御支援をありがたく思っている。まちづくりについては、着々と進行中である。観光というキーワードで交流人口を増やすことを第一歩のスタートとしてやっている。なかなか地域の中での連絡が密にならないこともある。もう少しまとまったらいいのになというのが現実である。交流人口が増えた後、「定住者はあるのか」という問題もある。交流人口を増やすことという小さなところで動かないといけないとは思っているが、このさき5年間に北山三学区で定住する若者がどれだけいるかということを考えるとゼロに近いだろう。我々は早急に考えないといけないと思うが、根本的な策がない。かつては三学区の地域に1000人の人口がいた。地域

の産業に従事する人がほとんどだった。地域の産業の発達により雇用が生まれ、定住につながっていた。産業が右肩下がりなので、なんとか横ばいになる努力をしているところである。我々の地域や産業をどうしたらいいかということについて、知恵があればみなさんから御意見を頂戴できたらと思うので、よろしく願います。

○委員

よくまとめていただいたし、どの項目を見ても、実際にやるとしても楽しいだろうなと思って見ていた。具体的に考えるときには、綺麗にまとめるだけではなく、「何をどうして」というところで、どこからやったらいいかという優先順位や順番をつけることもしていけないといけない。全部やれたらいいが、どこからということを考えていけたらいいかと思った。

○委員

地域コミュニティの中心は学校である。三学区でも学校がなくなり、中心がどこになるかということが、心配なことである。不審者のこともあり、学校が閉鎖的になっている現状の中で、夏祭りや運動会のときだけなど、限られたコミュニティになってしまっている。学校というものについて、子どもたちは「登校」し「下校」することを考えると、学校は一段高いところにあるという視点なのかなと思う。先ほどお話のあった中学生の「未来を語る会」のことを考えると、5年後には彼らは20歳。このような取組で、子どもたちに自分達の住んでいるまちや地域活動についてすりこんでいくことが大事だと思う。年に1回でもいいのでこのような取組を積み上げていけば、彼ら自身が社会に出たときに、北区はこういうコミュニティなんだと思えるようになる。そのようにしたい。高校生が修学旅行で外国に行くために事前学習として外国のことを勉強するのに、目の前の金閣寺、大徳寺のことを何も知らない。留学生として外国から来られる方の疑問にも答えられない。子どもたちに地域についてすりこみ、そのよさを気付かせる場をつくることにつながるように期待をしている。

○副座長

2週間前に聞いた話だが、私の1年のクラスを支援している2回生は、金閣寺でバイトをしているが、フランスから来た方が知っている船岡山を知らなかった。自分達が住んでいる・通っている北区に素晴らしいものがたくさんあるので、ぜひ、子どもや若者に知っていただきたいと思う。

○副座長

中京区に実家があり、家業は着物に家紋を描く仕事だった。その家業が嫌いで東京の出版社に就職した。ある年齢にならないとわからないこともあるが、外から見て「北区はどんなのか」ということを意識し、京都の良さに気付くことが大切だ。京都に元々生まれ育っていない方が、北区に住んでいる。外と比較して北区の魅力は何なのかということを見ると、北区でしかできないことが分かってくる。外と内を客観的に鳥の目でみることができる。シニアでも船岡山を知らない。私の父親はずっと京都に住んでいるが京都の観光をしないし、世界遺産が17あることも知らない。それぞれの人新しい視点をもつ機会をチャンスがあると北区の素晴らしさの再発見につながる。それができないと発信といっても何も伝えられない。ポイントがずれていると伝わらない。北区の魅力を「自分ごと」としてどう見つけるのか。区制60周年と結びつけ、「THINK 北区」として、地域を見つめ、見直す視点を持つ

ていただくことがよいと思った。

○委員

北区はいいところだが、栄えていくのはなく、廃れていっている。地域の高齢化が進んでいる。昔は、北大路商店街、紫明商店会が大学を中心に活発なコミュニケーションがあり、地域が動いていた。今は、学区運動会をしても走る人がいない。お店の後継者がおらず、閉まっている店も多い。活性化をどうするか。食べる店、買う店がないということで北区に住んでいる人間が北区でお金を落とさない。学校の子どもが半分になり、子どもが帰ってきても地域で遊ばない。昔は母親が家にいたが、今は勤めていていない。区役所がしている「再発見」事業の企画も素晴らしいが、それにどれだけの人が参加するかが大問題だ。町内の中で33軒のうち7軒が空き家である。親が亡くなっても、子どもは帰って住まないし、売ることもし、家族が持っている。空き家の問題が言われているが、壊す程ひどい状態でもない。地域においては、住んでいるもののコミュニケーションが一番大事である。PTAの役員にも地域活動に入るように声をかけるが、学校を卒業したら、地域活動をしない。学校に、PTA役員の連絡先を聞くが教えてもらえないので、地域の人に聞いて調べて訪問して声をかけるが、昼間は不在で役員もしてもらえない。なぜ、地域活動のために連絡先を教えてもらえないか不思議である。どうしたら新たに地域活動に参加していただけるのかを本当に悩んでいる。地域の活性化というのは、子どもから大学生、子育ての人がいてはじめて成り立つものだ。少年補導の行事のバスに、子どもは3、4人しか乗っておらず他は親か祖父母というのが実情だ。マンションばかりが増えるが、住民には地域活動にも参加してもらえないし、家主には「町内会にも入らないし、声をかけるな」と言われる。北区民ふれあいまつりは、学生も入ってすばらしい。昔は、北文化会館を借り切りで開催する学生の文化祭があり、地域の人が点数をつけた。非常におもしろかったので、再開してはどうか。学生に地域に入ってもらいたいので、大学の先生にも御尽力いただきたい。

○副座長

希望はなくはない。これまでマンションにもいっぱい関わっているが、地域活動に積極的なところもある。「地域活動をやらない」という人ばかりでもない。希望を持って地域活動をしていただきたいと思う。

○座長

他に何かあるか。なければ、事務局にお返しする。

○事務局

委員の皆様から頂戴した御意見をどう反映させていただくかということについて座長、副座長と相談してまとめ、みなさんに御報告させていただく。

○座長

副座長、事務局で相談して報告するというので、よろしいか。

<異議なし>

○座長

そのようにさせていただく。「その他」について事務局から願います。

○事務局

資料7～9を配布させていただいている。従来の北区民まちづくり会議なら、詳細について御報告させていただくところであるが、本日は時間もないので申し訳ないが、資料配布ということでご覧いただきたい。

○座長

今の説明について御質問はないか。それでは、議題は全て終わったので、進行を事務局に返す。御協力ありがとう。

○事務局

委員の皆様から有意義な御意見をたまわったことを感謝する。北区制60周年をきっかけとして、これからの5年間、区制70年のはじまりと考えまちづくりを進めていきたい。まちづくり会議委員の皆様には、これからも貴重な御意見を頂戴したいと思っている。御礼申し上げます。これで北区民まちづくり会議を終了する。

<以上>